



# プロファイラー・リモート クイック・ガイド

## 免責事項、商標について

本マニュアル、および本マニュアルに記載のソフトウェアおよびハードウェアは使用許諾契約に基づいて使用されるものであり、使用および複製は当該使用許諾契約の条項に準じます。また、本マニュアルの内容は本機の機能を説明するためにのみ記載されるものであり、予告なく変更されることがあるとともに、本マニュアルの内容は Kemper 社 (Kemper GmbH) が確約したものと解釈されません。

Kemper 社 (Kemper GmbH) は、本書の誤記等に関し一切の責務を負いません。また、本書の使用許諾契約で許可される範囲以外の内容に関する複製および検索システムへの登録、または電子的手段、機械的手段、録音および録画、撮影、狼煙、その他いかなる手段における送信も、Kemper 社 (Kemper GmbH) の書面による事前許諾がない場合、これを行うことはできません。

Kemper Profiler Remote は Kemper 社 (Kemper GmbH) の商標です。その他の商標はそれぞれの保有者が管理する資産です。また、本機の外観および仕様は、予告なく変更されることがあります。

「安全上のご注意」を必ずお読み下さい。

© Copyright 2015 Kemper GmbH. All rights reserved.

[www.kemper-profiler.com](http://www.kemper-profiler.com)

# 目次

プロファイラー・リモート

クイック・ガイド

ご購入いただいたリモートとは？

1

始めましょう！

2

接続方法

2

Up/Down ボタン

2

Rig ボタン 1～5

2

TAP ボタン

3

TUNER ボタン

3

Effect ボタン I～III

3

LOOPER ボタン

4

エクスプレッション・ペダルや外部スイッチの接続

5

その他のセッティング

6

接続ケーブル

6

EN 規格

6

FCC

7

通信規制

7



## ご購入いただいたリモートとは？

ケンパー・プロファイラー・リモートをお買い上げいただき、ありがとうございます。プロファイラー・リモートは、特にライブ・ステージにおいて、プロファイラーを自在にコントロールするために設計された専用フット・コントローラーです。双方向通信により、本体から電源供給を受け、本体の状態に関する様々な情報をリモートのディスプレイにも表示します。本体のファームウェア・バージョンに応じたリモート側のアップデートも自動的に行われます。

このクイック・ガイドでは、リモートを使い始めていただくにあたって、その概要を簡単にご説明しています。さらに詳しいご使用方法については、ファレンス・マニュアルの「プロファイラー・リモートとルーパー」の章をご参照ください。クイック・ガイドの内容は、適宜改善しておりますので、最新の情報はケンパーのウェブサイトをご確認下さい。

[www.kemper-amps.com/start/](http://www.kemper-amps.com/start/)

なるべく頻繁にチェックしていただくことをお勧めします。

# 始めましょう！

## 接続方法

プロファイラー本体とリモートを、付属のイーサネット・ケーブルで接続します。リモート側にはノイトリック社製のイーサコン・コネクタが実装されていますので、しっかりとロックされた状態で接続されます。

プロファイラー本体の電源を入ると、リモートもいっしょに起動します。リモート側は、起動時に接続されている本体に適合するよう、アップデートと初期化を自動的に実行します。

## Up/Down ボタン

パフォーマンス・モードでは、このボタンでパフォーマンスを切り替えることができます。タップするごとにパフォーマンス・ナンバーが1つつアップ／ダウンし、踏み続けるとスクロールが始まります。本体システム・メニューの「Performance Autoload」がオンになっている場合は、選んだパフォーマンスのロット1にストアされたリグが直ちに読み込まれます。「Performance Autoload」がオフの場合は、リグ・ボタンでロットが選択されるまで待機します。

ブラウズ・モードでは、「View」で絞り込まれたリグが「Sort」で指定された順番にアップ／ダウン、またはスクロールします。

## Rig ボタン 1～5

これらのボタンは、パフォーマンス・モードではロットの選択、ブラウズ・モードではリグの選択に使用します。

## TAP ボタン

このボタンは、本体フロント・パネルの [TAP] ボタンと同じくタップ・テンポのトリガーになります。4 分音符のタイミングでボタンを踏むことで、デレイやフェイザー、フランジャーやトレモロなどのスピードをコントロールすることができます。タップしたテンポに応じて LED が点滅し、現在のテンポを示します。暫く踏み続けると、あなたの演奏したフレーズから自動的にテンポを検知する「ビート・スキャナー」が起動します。詳しくは、リファレンス・マニュアルの「テンポ」の章をご参照ください。

## TUNER ボタン

TUNER ボタンを踏むとチューナー・モードに切り替わります。本体のチューナー・モード画面で「Mute Signal」をオンにすれば、チューニングの間はギター音をミュートすることができます。

## Effect ボタン I~III

これらの 4 つのボタンには、任意のストップやエフェクトのオン／オフをアサインすることができます。このアサインはリグごとにストアされます。ひとつのボタンに複数のエフェクトのオン／オフをアサインすることも可能です。

1 つめと 2 つめにアサインしたストップ／エフェクトの種類やオン／オフ状態は、スイッチの周囲にある LED で表示されます。スイッチ左右の上段の LED は、プロファイラー本体の LED と同様に、アサインしたストップ／エフェクトの種類によって点灯する色が変わります。アサインされていない場合は消灯のままです。下段の LED は、アサインしたストップ／エフェクトのオン／オフ状態を表示します。スイッチの左側の LED は 1 つめのストップ／エフェクトの種類と状態、右側の LED は 2 つめのストップ／エフェクトの種類／状態を表示します。1 つのスイッチに 2 つ以上のストップ／エフェクトをアサインすることが可能ですが、種類や状態が LED で表示されるのは最初の 2 つまでです。

Effect ボタンにストップ／エフェクトのオン／オフをアサインする手順はとても簡単：Effect ボタンを押しながら、プロファイラー本体側のストップ／エフェクト・スロットのボタン、例えば [A] のボタンを押すだけです。または、プロファイラー本体側のボタンを押しながら、そのスロットのオン／オフのコントロールをアサインしたい Effect スイッチを押すことでも設定可能です。この操作により、Effect スイッチ左側の上の LED が、エフェクトの種類に応じた色で点灯します。アサインを取り消す場合は同じ操作を繰り返してください。2 つめ以降のストップ／エフェクトをアサインする場合は、本体側の別のストップ／エフェクト・ボタンを使って同様の操作を行います。Effect ボタン右側の上の LED は、2 つめに選択したストップ／

エフェクトの種類に応じた色で点灯します。これらの操作により、各 Effect スイッチに複数のストンプ／エフェクトをアサインすることができます。Effect スイッチへのアサインと、各ストンプ／エフェクトの初期状態（オン／オフ）を全て設定したら、必ずリグをストアして下さい。以後そのリグは、ストアしたときと同じ状態で呼び出されます。全てのスイッチへのアサイン状況は、本体のリグ・メニューにおいて一覧表示することができます。この画面では、アサインの操作を繰り返すことなく、それぞれのアサインを消去することも可能です。

例えば、ストンプ [B] にディストーション、[MOD]スロットにコーラスがアサインされ、ともにオンになっているリグがあり、これら 2 つのエフェクトをリモートの Effect ボタン 1 でコントロールしたい場合を考えてみましょう。リモートの Effect ボタン 1 を踏みながら本体の[B] ボタンを押すと、Effect ボタン左側上段の LED が赤く点灯し、その下の LED が白く点灯します。これはディストーションがアサインされ、オンの状態になっていることを示します。次に同じ Effect ボタン 1 を踏みながら、本体の[MOD]ボタンを押すと、Effect ボタン右側上段が青、その下が白く点灯し、コーラスがアサインされ、オンになっていることを示します。以降 Effect ボタン 1 を踏むたびに、ディストーションとコーラスが同時にオンまたはオフになります。リグをストアしないとこの設定は失われてしまいますのでご注意ください。

さらにこの設定を完了してから、本体側のストンプ [B]を押してディストーションをオフにし、コーラスの方はオンのままにしてみてください。するとリモートの Effect ボタン 1 を踏んだとき、ディストーションがオンになり、コーラスがオフになります。つまりひとつの Effect ボタンでエフェクトを入れ替えるような設定ができるという訳です。

- ✓ 1 つの Effect ボタンにアサインされたストンプ／エフェクト個々のオン／オフ状態を組み合わせることで、1 つの Effect ボタンでシーンを切り替えるような設定を実現することも可能でしょう。

大きなステージで、プロファイラー本体とリモートが同時に操作できないような場所に設置されていても大丈夫です。本体のリグ・メニューには、ストンプ／エフェクトのボタンと、ディスプレイの上の 4 つのソフト・ボタンで、各 Effect スイッチにアサインするエフェクトを設定することができるページが用意されています。

ストンプやエフェクトのオン／オフ切り替えの他に、Effect ボタンには、何らかの動作をトリガーする機能をアサインすることも可能です。現時点でこの機能を使用できるのはロータリースピーカーのスピード (Slow/ Fast) の切り替えです。今後も様々な対象機能を追加する予定です。

- ✓ オン／オフのトグルとトリガーを同じ Effect ボタンにアサインすることはできません。

## LOOPER ボタン

リモートを接続することで使用できるルーパーのために、以下のボタンが配置されています：

LOOPER	このボタンで、以下の 6 つのボタンをルーパー用の機能に切り替わえます。
	録音 / 再生 / オーバーダブ
	停止 / 消去：3 回踏むと録音済みのループが消去されます。
	直前のオーバーダブをアンドゥ / リドゥします。
	トリガー：停止時にはループをスタート、再生時には先頭から再生し直します (リトリガー)。
	リバース：ループを逆方向に再生します。
1/2	ハーフスピード：録音 / 再生の速度が半分になり、録音できるループの長さが倍になります。

詳しい内容は、リファレンス・マニュアルの「ルーパー」の章をご参照下さい。

## エクスプレッション・ペダルや外部スイッチの接続

リモートは、エクスプレッション・ペダルや外部スイッチを接続できる TRS ジャックを 4 つ (PEDAL3～PEDAL6) 装備しています。外部スイッチは、ステレオ接続のダブル・スイッチまたはモノ接続のシングル・スイッチ (いずれの場合もモーメンタリー) が接続可能です。各ペダルやスイッチの機能は、本体システム・メニューで設定します。詳しくはリファレンス・マニュアルの「システム・メニュー」の章をご参照ください。

機能や設定方法は、プロファイラー本体リアパネルの PEDAL/SWITCH 1 / 2 と全く同じです。リファレンス・マニュアルの「ペダルや外部スイッチの接続」章をご参照ください。

## その他のセッティング

リモートの背面には LCD CONTRAST ツマミがあり、液晶画面のコントラストを調整することができます。その他の設定は、プロファイラー本体のシステム・メニューで設定します。つまり本体のバックアップに保存されるということです。リファレンス・マニュアルには「リモートとルーパー」の章があり、リモートのセッティングについても詳しく説明されています。

## 接続ケーブル

プロファイラー本体とリモートは、イーサネット・ケーブルを通じて双方向に通信します。プロファイラー・リモートに同梱されているケーブルには Neutrik® 社の etherCON® コネクタが使用されており、確実に堅固な接続を提供します。市販のイーサネット・ケーブルをご使用になる場合は、品質の高いものを選び下さい。10m を超える距離でお使いになる場合は、電源付きハブをご使用下さい。電源付きハブを使用することで 100m まで延長することも可能です。詳しくはリファレンス・マニュアルをご参照ください。

## EN 規格

本機 Profiler Remote は、以下の EN 規格に準拠しています。:

- Emission EN 55022 – radiated emission
- Immunity EN 61000-4-2

## FCC

ケンパー社 (Kemper GmbH Königswall 16-18, 45657 Recklinghausen Germany, Tel: +49 (2361) 9376824)は、FCC 規則第 15 章の指令に従うことを宣言します。該当する指令は以下の 2 項目です。:

- (1) 本機は有害な電波を発しない。
- (2) 本機は、たとえ好ましくない電波であってもその影響を受けない。

## 通信規制

この製品は、FCC 規則第 15 章の指令に従って検査され、デジタル機器クラス B の制限事項に適合することが確認されています。これらの制限事項は、居住地域での設置／使用における電波障害の発生を防ぐために規定されています。この機器は電波を発します。もし取扱説明書に沿った正しい使い方がされない場合、通信障害を引き起こす可能性があります。しかしながら特定の使用において電波障害を引き起こさないことが保証されている訳ではありません。もしこの機器がテレビやラジオの受信障害を引き起こし、この機器のオン／オフ等の操作によってこの機器が原因であることが確認された場合には、以下の何れか、または複数の組み合わせによって回避を試みて下さい。

- 受信アンテナの位置や方向を変える。
- テレビやラジオからこの機器を遠ざける。
- テレビやラジオの電源とは別回路からこの機器の電源を取る。
- 販売店またはテレビ／ラジオの専門技術者に相談する。

ケンパー社 (Kemper GmbH) の明確な許諾無く製品の改造を行うと、使用者としての権利を失うことになります。

## 安全上のご注意

- これらのご注意事項をよくお読み下さい。

- これらのご注意事項をご理解ご記憶下さい。
- すべての警告に従って下さい。
- すべての指示に従って下さい。
- 本機を水のそばで使用しないで下さい。
- お手入れにおいては、柔らかい布で乾拭きしてください。
- これらのご注意事項に沿って、適切な場所に本機を設置してください。
- 熱を発生する物や機器（アンプ等を含む）のそばに設置して使用しないでください。
- ケンパー社 (Kemper GmbH) が認めた周辺機器、アクセサリ等以外は使用しないで下さい。
- 本機の修理は、必ずケンパー社 (Kemper GmbH) が認める修理技術者にご依頼下さい。本機の上に水をこぼしたり、雨や霧にさらしてしまったり、落としてしまったりしたことで本機が正しく動作しなくなった場合は、専門技術者による点検／修理が必要です。
- 本機をはずくや水はねにさらさないで下さい。本機の上に飲み物など、液体の入ったものをおかないで下さい。
- 本機を野外、露天、炎天下で使用しないで下さい。